

妙法寺だより



令和四年

春号

春 お彼岸



～ご確認ください～



お彼岸中は毎日「彼岸会法要」を行います

分散化の取り組みとして

3月18日～24日 各日 午後2時より彼岸会法要を行います
ご参列の際はマスクの着用をお願いします

お彼岸法要のライブ配信

お中日3月21日 午後2時より

彼岸会法要をYouTubeでライブ配信します
妙法寺の公式ホームページからアクセス頂けます

お墓参りと卒塔婆は お彼岸中いつでもどうぞ

お彼岸期間中（3月18日～24日）にはご本堂でお焼香のうえ
卒塔婆をお持ち頂き お墓参りください

◆ 受付時間：午前9時～午後5時 ◆

卒塔婆を取る前に必ず受付にお寄りください

お申込頂きました卒塔婆は3月17日までに御経を上げ本堂内に準備しております



卒塔婆の申込は3月14日までに！

同封の「卒塔婆申込用紙」に必要事項をご記入頂き**3月14日迄**に同封の返信用封筒・FAX・Eメールでお申込みください。

FAX 番号：045-812-7676



「お布施袋」をご利用ください

供養料・卒塔婆料は、お布施袋にお納め頂き、受付にお渡してください。表面にはお名前を、裏面には内訳や合計金額をお書きください。



生花とお線香

3月18日～24日まで受付にてお墓用の生花をご用意しております。

生花（お線香付）：1対 1500円 お線香：100円

※墓地では販売しておりませんのでご注意ください。



駐車場のご案内

3月18日～24日までは墓地裏口（小学校側）を臨時駐車場として開放しております。**小学校の前の道路は、朝8時30分迄はスクールゾーンのため車両進入禁止になっております、ご注意ください。**



外出がご不安な方へ

外に出るのがご不安な方は、卒塔婆の申込用紙に、その旨をご記入ください。お寺で卒塔婆とお線香を墓地にお供えさせていただきます。



地元 お彼岸 棚経

3月

18日 … 中村地区 三・四丁目 方面

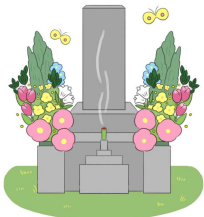
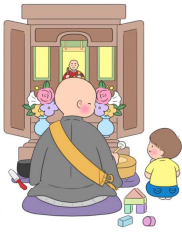
19日 … 下地区 二丁目

20日 … 金房地区

22日 … 上矢部羽沢地区

… 旭区南本宿方面

23日 … 歌舞伎地区一丁目



お葉書で日時を
ご連絡致します



どうぶつ 供養会

3月21日（春分の日） 午前11時より本堂にて、「どうぶつ 供養会」を行います。

ご納骨されている方をはじめ、ペットを亡くされた一般の方もお参り頂けますので、是非ご参列、ご焼香ください。

※ソーシャルディスタンスをとって、例年通り執り行います。

※納骨をされている方には、専用の卒塔婆申込用紙を郵送させていただきます。

※ご納骨をされていない方で、卒塔婆供養をご希望の方はお問合せください。



妙法寺開山 日昭聖人

七〇〇遠忌記念



妙法寺に奉安される
日昭聖人坐像

日蓮聖人を支え続けた

日昭聖人の激動の

ご生涯を訪ねる

はじめに

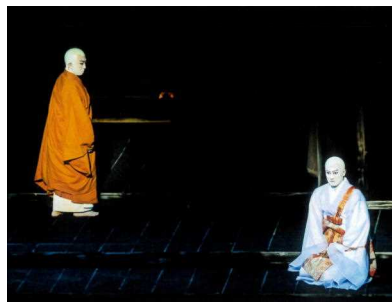
本年3月26日は、妙法寺を開かれました日昭聖人^{にっしょうしょうにん}がお亡くなりになられてから700遠忌の節目にあたります。本来であれば、記念法要や記念事業を行いたい思いはございますが、現在の世情を鑑みると難しいと判断致しました。皆様がマスクを外して気兼ねなく集える頃になりましたら、昨年迎えました日蓮聖人ご誕生800年と本年迎える日昭聖人700遠忌の行事を合わせて行いたいと考えております。そのことから今号では妙法寺を開かれました日昭聖人について、そのご生涯をご紹介します。「妙法寺つて誰が開かれたの?」と、歴史を知らない方も多いかと思えます。是非、この機会に知って頂ければ幸いです。

日昭聖人のお生まれと比叡山での修学

日昭聖人は、承久3年(1221)、下総国印旛^{しもうさのくにいんぼうのしょう}郡^{ぐん}にお生まれです。父は千葉一族の流れをくむ豪族の印東三郎祐昭^{いんとうさぶろうすけしやう}、母は伊東祐時の娘との間に誕生されました。ちなみに母の妹は平賀二郎有国^{ひらがじろうありくに}(現在の千葉県松戸)に嫁がれ同じ日蓮聖人の直弟子である日朗聖人の母となった方です。

日昭聖人は幼少の頃に近くの天台宗寺院で出家し「成弁^{しょうべん}」と名乗っております。やがて当時の仏教の総合大学である比叡山に進み、仏教の研究に励まれ博識多才であったと伝えられています。日蓮聖人とはこの比叡山で出会い共に仏教を探索する学友であり、日昭聖人のほうが1歳年長でありました。日昭聖人は日蓮聖人の法華経への深い信仰と人々を法華経で導こう

とする情熱に感銘を受け天台宗僧侶の身分を捨て、甥御である日朗聖人と共に入門し、日蓮聖人の最初の弟子となります。日蓮聖人は正式には「大成弁阿闍梨日昭」といい、日蓮聖人のお手紙の中では「弁阿闍梨・弁殿・弁房」と呼ばれています。



昨年、歌舞伎座で公演された「日蓮」でも、日蓮聖人の情熱に感銘を受け日昭聖人が入門するシーンが演じられました。上座の日蓮＝市川猿之助
下座の日昭＝中村隼人

日蓮聖人の迫害と日昭聖人の役割

日蓮聖人は比叡山での修行と勉強によって、多くの經典のなかで法華經こそが、そして「南無妙法蓮華經」のお題目信仰こそが真実の仏教であると確信され、建長5年（1253）お題目信仰の旗を掲げ、日昭、日朗聖人と共に当時の日本の中心であり、為政者や有力な武家をはじめ、多くの人々が集った鎌倉の地で布教を始められます。しかしながら、新しい宗教への周囲からの偏見と弾圧は大きく、当時隆盛していた念仏信仰の僧侶やその信徒、幕府の為政者からは「謀反を起こす僧侶」、「危険な宗教」として迫害と弾圧を受けます。

日蓮聖人は、当時の様子をお手紙のなかで
或は罵られ、打たれ、或は傷をこうむり、或は流罪に二度、死罪に一度定められぬ。其外の大難数をし
らず。

と述べられており、幾多の迫害や流罪を被られたため日蓮聖人は、その生涯における布教活動の内、鎌倉に滞在した時間はあまり多くありませんでした。そのため佐渡の流罪地や隠棲された身延山など遠隔地に滞在する日蓮聖人と信徒達との間をつなぐ存在となったのが、鎌倉に拠点を構える日昭聖人や日朗聖人たちでありました。

佐渡に流罪中、文永10年（1273）、信徒である南部実長公に宛てたお手紙の中には、

鎌倉に筑後房（日朗聖人）・弁阿闍梨（日昭聖人）・大進阿闍梨と申す小僧等これあり。これを召して御尊びあるべし。御談義あるべし。大事の法門等ほば申す。彼等は日本にいままだ流布せざる大法少々これを有す。したがって御学問注し申すべきなり。

と述べられており、日蓮聖人が不在の鎌倉においてその代弁者として法華經の教えを広め、信徒への講義を託されていたのが、日昭聖人、日朗聖人、大進阿闍梨たちであったことが伺えます。

斬首の危機と極寒の佐渡への流罪

文永8年（1271）9月に起きた迫害は日蓮聖人のみならず教団全体に及びます。日蓮聖人は幕府の役人によって捕らえられ、龍ノ口（現在の江ノ島付近）で斬首の刑にかけられます

が奇跡的に一命を取り留めます。弟子5人も捕らわれ幽閉され、迫害は信徒達にも及びます。その迫害と弾圧によって多くの弟子達や信徒が日蓮聖人のもとを去って行つたといひます。

奇跡的に幽閉を逃れた日昭聖人は、日蓮教団の危機的な状況を立て直すため、鎌倉の「浜土」(現在の材木座付近)の地に法華寺という寺院を建立し、日蓮聖人不在の鎌倉の地で壊滅的な状況にあった日蓮教団を支え、残された弟子や信徒の信仰を支えられるのであります。



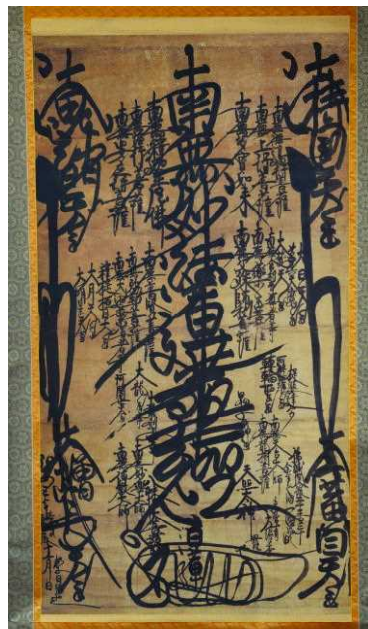
鎌倉 光則寺にある
日昭聖人が幽閉された土牢

浜土法華寺に掲げられた御本尊

弘安3年(1280)日昭聖人は日蓮聖人より曼荼羅御本尊を授与されます。この御本尊は12枚の紙を貼り継いで書かれた大きな御本尊で、通称「伝法本尊」と呼ばれております。縦2メートル、横1メートルにも及び、日蓮聖人がお書きになられたなかでも最大級です。これだけ大きな御本尊を授与された背景には、浜土法華寺に集う多くの信徒のために大きなご本尊を授与され掲げられたものと考えられています。このことから法華寺は大きな御本尊を掲げることができる大きな伽藍(お堂)を有し、多くの信徒が集う鎌倉の布教活動の中核を担う拠点であったことが伺えます。

浜土法華寺は開創以降、幾度の移転を経て元和7年(1621)に静岡県三島市玉沢の地に移転し、寺名を「妙法華寺」と

改め、日昭聖人の本山としてその法灯を伝えています。

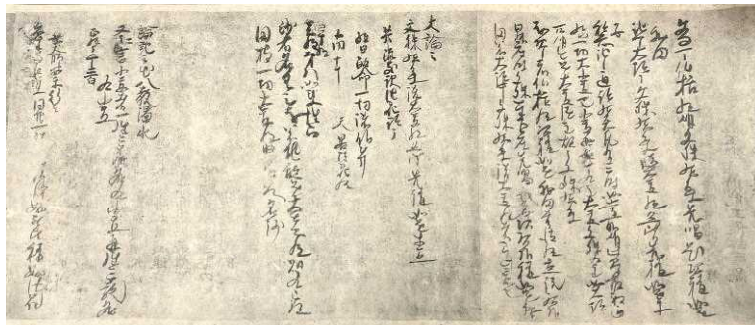


～ 伝法本尊 ～

玉沢妙法華寺蔵。妙法寺の御本尊も伝法本尊を樹齢500年の楠木に謹刻し本尊として掲げられています。

日蓮聖人の臨終と日昭聖人

日蓮聖人は晩年、隠棲の地である身延山で体調を崩され、弘安5年(1282)9月、療養のため常陸(現在の茨城県)の湯に向かうべく、住み慣れた身延山をあとにされます。体調を崩しながら12日間かけて池上宗仲の館(現在の池上本門寺)にたどり着きましたが、日蓮聖人のお体はそれより先の旅に耐えうる状態にありませんでした。最期を悟った日蓮聖人は、日昭聖人を始めとする日朗、日興、日向、日頂、日持の6人を直弟子として定め教団の後事を託し、10月13日辰刻(午前8時頃)、61歳を一期にご入滅されました。池上本門寺の伝承によれば、この時、日昭聖人が日蓮聖人のご入滅を内外に知らせるため鐘を打ち鳴らしたと伝えられます。この鐘は「臨滅度の鐘」と称され、現在でもこの故事に因んで、毎年10月13日の池上本門寺のお会式では御住職により鐘が打ち鳴らされています。



～ 注法華経 ～

経文と経文の間にぎっしりと書かれた日蓮聖人の注釈、
その筆は経巻の裏面にまで及びます。

茶毘にふされた後、日蓮聖人のご遺言に従って形見分けが行われました。門下の上首であった日昭聖人は、この時「注法華経」を継承されました。「注法華経」とは、日蓮聖人が所持されていた法華経の経本であります。このお経本は日蓮聖人が長年にわたって論釈や注記などを書き込まれたもので、まさに日蓮聖人の英知が詰まった経本であり、日蓮門下の宝です。「注法華経」は、現在でも妙法華寺に厳格に護持されています。

名瀬 妙法寺を開山する

日蓮聖人滅後、日昭聖人は風間信昭公の招きによって鎌倉郡名瀬に妙法寺を開山します。

風間公は、越後国（現在の新潟県）の直峰城の城主であり、鎌倉幕府護衛の勤番として家臣と共に名瀬の地に屋敷をかまえておりました。風間公は鎌倉の地で日昭聖人からの教化を受け篤信の信徒となります。徳治元年（1306）日蓮聖人の二十五回忌に合わせて風間公は自身の敷地内に寺院を建立し、日昭聖人を開山聖人として迎えられました。日昭聖人86歳の時でありました。以来、文保元年（1317）までの12年間、名瀬妙法寺で布教活動に尽力されます。



風間信昭の肖像

その後、日昭聖人は弟子である日成上人に名瀬妙法寺を、浜土法華寺を日祐上人に託されます。そして名瀬妙法寺を風間公の領地である越後村田（現在の新潟県長岡市）に移して北越布教の拠点とするよう遺命され、元享3年（1323）3月26日、103歳をもつて入滅されました。入滅後、程なくして越後の国に妙法寺が建立され、現在では北越布教の拠点として「本山村田 妙法寺」として伝統を伝えていきます。

玉沢妙法華寺・名瀬妙法寺・村田妙法寺は、「注法華経」を受け継いだ日昭聖人が開かれたことから、全て「経王山」という山号であり、通称「経王三山」と呼ばれております。

本山 玉沢妙法華寺



ご正当にあたる3月26日には、静岡県三島市の玉沢妙法華寺様において、日昭聖人の縁のある寺院が集い700遠忌の記念法要が営まれます。ご法要の様子などはまたご報告させていただきます。

後生、身延山第36世の日潮上人は、日昭聖人の功績を讃え「補處位の人」と表現されました。「補處位」とは、仏様の教えを受け継ぎ支える人という意味です。日昭聖人は、日蓮聖人を学友時代より入滅に至るまで日蓮聖人を陰で支え続け、日蓮教団の危機を守り、現在の日蓮宗の基盤を構築された方であったと言っても過言ではありません。私自身もこの記事を書かせて頂く中で日昭聖人への敬意と感謝の気持ち、そしてその歴史と法脈を受け継ぐ住職としての責任の重さを改めて感じた次第です。



妙法寺の本堂に掲げられている「補處位」の書は、戒行寺（東京都）のご住職で、日本芸術院の会員でもある書家「星弘道」上人によって揮毫されました。

おわりに

花まつり法要 対応について

4月8日に営みます「釈尊降誕会（花まつり法要）」は、現在の世情を鑑み、一般の方々の参拝は中止し、妙法寺の僧侶のみで執り行います。

本堂には降誕仏をお祀りし、ご自由に参拝頂けるよう準備を整えております。どうぞご自由にご参拝ください。

4月8日（金）

午前9時より午後4時まで

本堂を開放

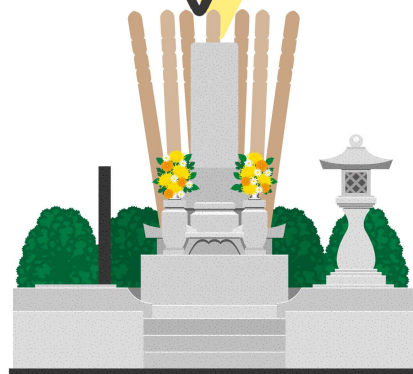


住職がアドバイス

妙法寺 墓終いの作法



近年「墓終い」の
相談を多く承ります。
住職が考える
正しい「墓終い」の
作法をご案内致します。



先祖代々の墓地を処分していくことを近年では「墓終い」と呼ばれておりますが、少しイントネーションが強いので妙法寺では「お墓納め」と呼んでおります。現在、少子高齢化などの様々な理由で墓地を維持できない方も増えてきています。また巷では「墓終いしようとしたら離壇料として数百万円請求された」という事例も発生しています。何十年何百年とご先祖様をお祀りしてきた墓地だからこそ、感謝の心で、丁寧な作法で「お墓納め」を行っていききたいものです。今回は、わからないことが多い「お墓納め」について、ステップ形式でご案内していきます。

作法一、家族や親戚に相談する

お墓納めを考えている方の中には
「子どもたちに迷惑がかかるから」
「子どもはあてにならないから」
「娘は嫁いってしまったから」
という理由でお墓を処分したいと思っ
てる、というご相談をお受けします。
しかし、実際に家族に相談してみると、
墓地を負担と思っていない、嫁いだと
しても祖父祖母が眠るお墓は大事にし
たいという話をよく聞きます。「墓地＝負担」と考えている
のは、ご自身だけかもしれません。周囲に相談することなく
処分してしまうことで、誰かが悲しんだりすることが無いよ
うご家族やご親戚に相談しながら進めていくことが肝要で
す。



作法二、墓地の魂抜きの閉眼法要を行う

お墓納めを行うことが決まったら、まずは墓地の魂抜きの
行います。墓地は建立した時に魂入れの「開眼法要」を行っ
ておりますので、その魂を抜く「閉眼法要」を営みます。
その法要の時には、お墓納めすることをご先祖様にご報告し、
墓地に埋葬されている方々、ご先祖の方々のご供養も一緒
に行います。

※法要のお布施は3万円～5万円程度です。

作法三、ご遺骨を永代供養塔に移動する

墓地に納骨されているご遺骨を妙法寺の永代供養塔に移動し、妙法寺が末永く供養して参ります。ご遺骨は永代供養塔にて一定期間お預かりし、その後合祀を致します。

また永代供養塔に移られた方は、「妙法寺 永代供養塔霊簿」に書き入れ、お位牌堂に安置し、毎朝のお勤めの時に供養を致します。そのため無縁仏になるということはありませんので安心してお預けください。もちろん「離壇料」なども請求しておりません。

※永代供養は1霊位10万円からですが、経済的に厳しい方などはお気軽にご相談ください。



【右写真】 ご遺骨をお預かりする「慈母観音 永代供養塔」、多くの方々が手を合わされ、お花を手向けてくださいます。

【左写真】 「永代供養霊簿」この霊簿は歴代の住職に引き継が、末永く供養されます。

作法四、墓石の解体工事

ご遺骨の移動後、墓石の解体工事を行います。解体工事は、極力当山の出入りの石材店をお願いしております。近年、解体した墓石を不法投棄する業者が増え、社会問題となっていることから、適切に処分を行う出入り業者をお願いしております。

※解体工事は、墓地の大きさによって差異はありますが30万円〜60万円ほどです。

その他、仏事に関してご不明な点は

お気軽にご相談ください。



妙法寺の自慢の桜も今年もキレイに咲いてくれると思います。密を避けながら、是非お花見にいらしゃってください。



夜桜ライトアップは開催の予定ですが、コロナの感染状況によって中止する場合がございます。
開花状況や開催期間などの最新情報はホームページやオフィシャルFacebookをご覧ください。